




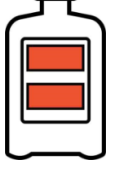


biweekly CPT-11+weekly Cetuximab療法

～ 治療スケジュール ～

お薬の名前	1日目	8日目	9～14日目
●デカドロン ●ボララミン	 30分	 30分	お休み
アービタックス (セツキシマブ)	 初回120分 継続60分	 60分	お休み
●アロキシ	 30分	お休み	お休み
カンプト (イリノテカン)	 90分	お休み	お休み

治療中の注意点

点滴部位に強い痛みや腫れ、かゆみを感じた場合はお知らせ下さい。

気分が悪い、寒気、動悸、息切れ、顔や体がかゆいなどの症状が現れた場合はお知らせ下さい。

イリノテカン投与中の急な腹痛や下痢が現れた場合はお知らせください。

処方される支持療法薬

■カンプトの下痢予防に使用します

半夏瀉心湯

酸化マグネシウム

ウルソデオキシコール酸

炭酸水素ナトリウム

上記の薬剤は患者様に応じて処方されるので、すべて予め処方されるわけではありません。

■皮膚障害に対して使用します

ミノサイクリン（テトラサイクリン系内服抗菌薬）・・・ざ瘡様皮疹の予防に使用します。

保湿剤（ヘパリン類似物質、尿素クリーム など）・・・皮膚乾燥の予防に使用します。

ステロイド外用薬（皮膚障害の発現部位、症状に応じた強さのもの）・・・ざ瘡様皮疹、皮膚乾燥、爪囲炎など出現したときに使用します。

上記の薬剤は患者様に応じて処方されるので、すべて予め処方されるわけではありません。

起こりやすい副作用

■白血球・好中球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があります。

治療開始後1～3週間頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を行い、白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

■貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつき、倦怠感、息切れ、動悸などの症状があらわれることがあります。

場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

■血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。

血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい。

■低マグネシウム血症

血液中のマグネシウム量が減少し、筋肉のけいれん、ふるえなどが出る場合があります。

初期の自覚症状はあまり見られないため、定期的に血液検査を行い、マグネシウムの量を確認します。

■悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療薬や症状に合わせて吐き気止めを使います。

食事や水分がとれない、または、1日4回以上吐いた場合は連絡してください。

⇒食欲がなくても、脱水を防ぐため水分はしっかりとるようにして下さい。また、無理せず食べたいものを食べられる量だけ取るようにしましょう。

■下痢

1日4回以上の排便、もしくは明らかな排便回数の増加がみられた場合は、病院への連絡が必要です。

必要に応じて下痢止めが処方されることがあります。

⇒下痢または軟便の時は脱水を防ぐために、消化に良い物を取り、水分もしっかりとりましょう。

■脱毛

お薬の種類や患者さん個人によって違いはありますが、治療開始2～4週間後から抜けやすくなります。

髪以外の部分（まゆ毛、ひげ、体毛など）でも同様におこります。

治療が終了、あるいは脱毛の起こりにくいお薬に切り替えた場合は少しずつですが生えてきます。

⇒脱毛が気になる場合は、医療用かつらやウィッグ、帽子などをお勧めします。

■倦怠感

治療開始2、4日後にだるい、体が重い、疲れやすいといった症状があらわれることがあります。

⇒適度に休息を取ったり、無理せず安静にしましょう。

■にきび様皮疹・皮膚乾燥

治療開始数日～1週間後に顔や胸、背中にニキビのような皮疹がみられ、1～2週間頃に最も強く出るといわれています。次第によくなりますが、治療開始3～6週間後、皮膚の乾燥が強くなってきます。

皮疹にはステロイド軟膏、乾燥には保湿剤を使います。

⇒皮膚症状の悪化を防ぐため、日頃から保湿を心がけてください。

■ そう痒

抗がん剤の副作用による皮疹や皮膚の乾燥に伴って、かゆみを生じることがあります。

症状に応じてぬり薬や飲み薬を使います。

⇒かき過ぎてしまうと、かえって症状を悪くしてしまうこともあるので、注意して下さい。

■ 爪囲炎

治療開始4～9週間後に手足の爪の周りの皮膚に炎症がおこりやすくなります。

ひどくなると、爪の周りの肉が盛り上がり、強い痛みをとまいません。

⇒症状の軽いうちから保湿剤やステロイド外用薬を適切に使用し、ケアを行ないましょう。

！ 連絡をいただきたい症状！

- 38℃以上の発熱があるとき。
- 食事や水分をとれないほどの吐き気や嘔吐があるとき。
- 1日7回以上の下痢があるとき。
- 乾いた咳が続く、または息切れを感じる時。（間質性肺炎）